

名鉄病院newsletter

平成18年9月号



ごあいさつ 名鉄病院 院長 二村良博

名鉄病院は今年設立50周年を迎えることができました。これも皆様のご支援の御蔭と厚く御礼申し上げます。最近では受診いただく患者さまの90%以上が地域の方々であり地域基幹病院としての性格が更に鮮明となっております。このような状況に鑑み、地域医療連携室の強化と院内体制の充実を図っております。本年4月よりは専従の看護師長と電算機を得意とする事務職員を配置し、今後順次機能を強化してゆく予定であります。当院といたしましては、地域医療の重要性を一段と認識し、幅広く地域に根ざした名鉄病院として医療機関の方々、住民の方々に、より一層深い信頼をいただけるよう、診療レベルの充実と向上を更に図り、患者様中心の医療を実践すべく、綿密に努力いたします。皆様方には、これまで以上に名鉄病院に対して、ご意見、ご示唆を賜れば誠に幸いです。

- 内視鏡室リニューアルのお知らせ
- 脳神経外科ナビゲーションシステム
- Season Report / 連携室より一言

外来医師担当表を添付してあります。ご活用ください。

【お知らせ】当院ホームページのアドレスが変わりました。新アドレスは <http://www.meitetsu-hospital.jp/> です。よろしくお願いいたします。



内視鏡室リニューアルの お知らせ

名鉄病院 消化器科

● 当院消化器科の特徴

胃十二指腸潰瘍、胃癌、大腸ポリープ、大腸癌、潰瘍性大腸炎、肝炎、胆石、膵炎など消化器疾患全般にわたる診療を行っています。消化器科では、正確な診断、適切な治療を行うために外科、放射線科、病理と協力しあいながらチーム医療を行っています。経験豊かな医師がそろっており患者様のさまざまなご要望に応えられます。

● 専門分野

- 1：消化管のポリープ、早期癌の内視鏡的診断と治療を専門としています。
- 2：胃潰瘍・十二指腸潰瘍のヘリコバクター・ピロリ除菌治療を行っています。
- 3：胃癌の抗癌剤治療を行っています。
- 4：潰瘍性大腸炎の白血球除去・顆粒球除去療法を行っています。
- 5：B型・C型慢性肝炎のインターフェロン治療を行っています。
- 6：吐血、下血、腹痛、腸閉塞などの救急疾患に対して常時対応しています。
- 7：内視鏡的胃瘻造設術も随時行っています。

● リニューアルの内容

内視鏡を使用した医療技術の進歩は著しく、検査だけではなく、内視鏡を使用した治療や手術の件数は年々増加しています。また、人間ドックでの内視鏡検査希望者も急増しています。内視鏡医療の充実のため、当院では平成18年4月1日より、これまでの内視鏡機器をすべて一新し、地域ではいち早く最新のハイビジョン内視鏡システムを導入し、最新の検査を最高の設備で提供できるようになりました。



◆最新の内視鏡システムとは

1. ハイビジョンシステムにより高画質・高品位な鮮明な画像を得ることができます。

2. ハイビジョンシステムにより、微細な血管や粘膜の表面構造をリアルに再現できるほか、高解像度CCDとの組み合わせで、電子拡大が可能となりました。

3. 新開発CCDの採用による細径化・高画質化や、大腸内視鏡の硬度可変化により内視鏡の挿入性が向上しました。

4. これらにより、診断精度の向上を実現するとともに、検査時間や治療時間の短縮が可能となり、患者様の体力の軽減が可能になりました。

◆内視鏡の洗浄について

当院では内視鏡検査による感染を予防するために、内視鏡を1症例の検査毎にすべて専用の機械で洗浄消毒しています。内視鏡による感染の心配はありませんのでご安心ください。



● 年間内視鏡検査件数

食道胃十二指腸内視鏡検査	約4,000件
大腸内視鏡検査	約1,200件
内視鏡的粘膜切除術	約1,000件

名鉄病院では安全、正確で苦痛の少ない内視鏡検査を行っています。
内視鏡検査は月曜日から土曜日（第一土曜日のみ）まで毎日行っています。

● 患者様をご紹介いただく先生方へ

消化器科では毎日2名の医師により外来診療を行っていますので、どのような疾患でも消化器科宛にご紹介いただければ、迅速に対応いたします。なお、地域医療連携室を通していただくと幸いです。

消化器の検査も地域医療連携室を通して予約していただければ、迅速に対応いたします。消化器の検査を行うにあたり、すべての患者様に検査の目的、内容、危険性を十分ご説明して同意書に署名をして頂いておりますので、検査の前に外来診察を受けていただいております。

脳神経外科手術ナビゲーションシステム

名鉄病院脳神経外科

名鉄病院脳神経外科では、平成 17 年 3 月に BrainLab 社製の脳神経外科手術ナビゲーションシステムの導入が決まり、8 月から実際に臨床応用を開始しました。これまでの約 1 年間に、多数の手術に用いることが出来、大変良い手術支援システムであることが実感されています。本稿では、この最先端の手術支援システムについて、その機能を実際の手術症例に沿って解説いたします。

脳神経外科手術ナビゲーションシステムとは、手術前に撮像した患者様の CT や MRI による脳・脳血管・病巣などをふくめた頭蓋全体の画像をモニターに表示するとともに、手術器具の先端の位置や、器具の延長線を脳などの画像に重ねて表示し、手術操作を行なっている位置や方向を示すものです（図 1）。複数個の赤外線反射ボール（直径数ミリ）を手術用顕微鏡や手術器具に取り付け、赤外線検知カメラにより 3 次元的に顕微鏡や手術器具の位置情報を捉えます（図 2）。

ボール取り付け具は小型・軽量で手術操作の制限は少なく、様々な手術器具を脳神経外科手術ナビゲーションシステムで使用可能です。頭蓋内の病巣や正常脳の位置を正確に捉えられるため、腫瘍や血腫をミリ単位の 3 次元画像で映し出し、脳外科医の手先をその部位へ誘導し患部だけを摘出する低侵襲手術を行うことが可能となります。

さらに、当院の脳神経外科手術ナビゲーションシステムは、手術用顕微鏡との間で、病変部の位置データと顕微鏡の位置データとを相互に通信しているため、顕微鏡の視野に病変部の輪郭を投影して示すことが出来ます。術者はナビゲーション用モニター画像を見ることなく、手術用顕微鏡で術野を見たまま、病変部の輪郭を確認しつつ手術を進めることが可能です（図 5、6）。

では実際の手術症例を参考に、脳神経外科手術ナビゲーションとはどのようなものかを見てみましょう。

図 2 は、患者さんの位置情報を読み込んでいるところです。顔面、特に鼻や額などに安全なレーザー光を照射すると、その反射光を自動的に赤外線検知カメラが捉えて三次元位置情報に変換します。（この図のみ BrainLab 社のカタログから転載しました。）

図 1：脳神経外科手術ナビゲーションシステムのモニター画像（部分）

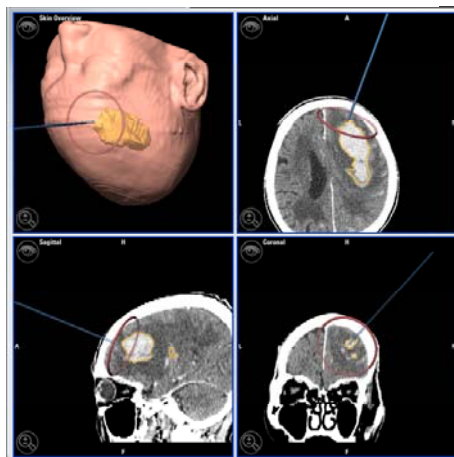


図 2：患者位置情報の読み込み



図3は、前頭葉の病巣を示す MRI 画像です。図4は、手術顕微鏡の視野です。黄色の点線は病巣の輪郭を示します。図では点線をなぞり皮膚上にマジックで印を付けています。病巣の位置が正確に示されるため皮膚切開や開頭する時の骨切の範囲を最小必要限にすることが出来ます。図5は、手術用顕微鏡で脳の表面を見たところです。脳の表面にはまったく異常が見られないので、ナビゲーションによる腫瘍の輪郭線が無ければ、どこから切開するべきか悩む症例です。図6は、ナビゲーションに従い脳を切開しています。赤褐色の病巣が画面中央から右に見られ、点線は病巣の最外側の輪郭を示し、実線は顕微鏡のフォーカスが合った深さでの病巣の広がりを示します。ナビゲーションの位置情報が、きわめて正確であることを手術中にはっきり確認されました。図7は、手術後のMRIです。病巣のみ、きれいに摘出されていることがわかります。当院が導入した脳神経手術ナビゲーションシステムは、以上のような、顕微鏡と連動させた使い方が出来るのが非常に大きな特徴です。そのほか、手術顕微鏡を必要としない手術では、ナビゲーションのモニタを見ながら手術をしますが(図1)、その詳細は紙面の都合上、またの機会に譲りたいと思います。

図3：脳内の病巣を示す MRI 画像

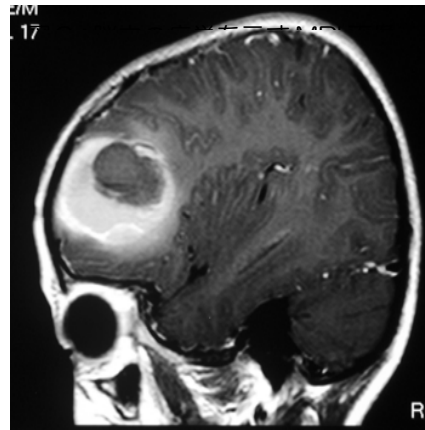


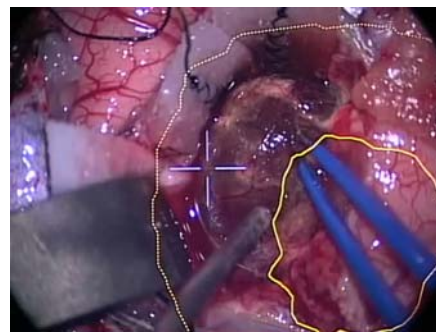
図4：手術顕微鏡視野に示された病巣の輪郭



(左) 図5：顕微鏡視野で脳表面に投影されている腫瘍輪郭

(右) 図6：顕微鏡視野で見られる病巣と輪郭線

脳神経手術ナビゲーションシステムを用いることにより、必要最小限の手術侵襲で、従来よりも精度の高い手術が出来るようになったことがご理解頂けた



と思います。もちろん脳神経手術ナビゲーションシステムが無かった時代からの手術経験は非常に重要で、従来からの手術技量の上にさらに高みを目指して組み上げていくシステムであると感じています。今後ともいっそう努力精進いたして参りますので、名鉄病院脳神経外科をどうぞよろしくお願いいたします。

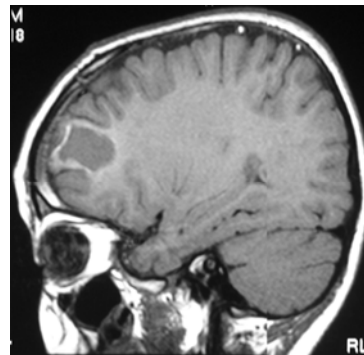


図7：手術後、病巣のみが切除されている

season report

当院では『イベントかえるクラブ』という名前で年4回おまつり等の活動を行っています。8月には《名鉄病院夏まつり》が開催されました。



連携室より一言

残暑お見舞い申し上げます。地域医療連携室が4月からリフレッシュされ、早いもので5ヶ月になりました。本業は産婦人科ですが、4月からは地域医療連携室の室長に任命され、また専任の職員も配置されまして、やっと軌道に乗ってきました。皆、フットワークも軽く仕事熱心ですので、これからもきっと患者さまや地域医療に携わっている皆様のニーズに応えられると確信しております。今回、久しぶりに名鉄病院 newsletter を発刊いたしました。今後は定期的に発刊し、常に新しいトピックスを皆様にご提供する予定です。今後も地域医療連携室をよろしくお願いいたします。（地域医療連携室長 細井延行）

当院の地域医療連携室では、FとYの2名が勤務しておりますが、2人とも話し好きで好奇心旺盛なものだから、いつでも賑やか、静かな時がありません。ある時、「“おはぎ”と“ぼたもち”の違いは？」というテーマが出た時も、私Yは「地域の違い」Fは「季節の違い」と真っ向対決。いろいろ調べた結果「季節の違い」が有力で、Fは「ほらっ♪」と勝ち誇った表情。しかし、こうした疑問を表に出してみることで、「自分と違う考えのひともいる」と社会の“深さ”も体感できます。皆さんも、一度話をしてみてはいかがでしょうか。ちなみに、Yの積年の疑問は「7をラッキーナンバーと決めたのは誰？」です。（Y）

名鉄病院 地域医療連携室

〒451-8511 名古屋市西区栄生2-26-11

TEL.052-551-6121(代) 052-586-5755(連携室) FAX.052-586-5756

URL : <http://www.meitetsu-hospital.jp/>